



## 国営事業地区探訪

# 先人が築いた庄内平野を「守り」「支え」「そして豊かに」 排水機能の強化 用水路を利用した排水系統の再編

最上川に広がる庄内平野は、山形城主だった最上義光が治めたことにより「米どころ」として発展。江戸時代から整備された水利施設は、平成30年に「世界かんがい施設遺産」に登録されている。昨今の湛水被害の深刻化と維持管理費高騰を解決するため、平成29年に国営かんがい排水事業に着工し、現在、その基幹施設である西野排水機場等の工事が実施されている。今回、本プロジェクトの責任者である東北農政局最上川下流左岸事業所の佐藤秀彦所長と(株)奥村組農政庄内工事所の松岡大輔所長にお話を伺った。

——今日は、よろしくお願いたします。佐藤所長におかれましては、令和7年4月にこの最上川下流左岸農業水利事業所に着任されたとお伺いしました。インタビューを快諾いただき、ありがとうございます。

まず初めに、佐藤所長に、これまでの職歴、国営最上川下流左岸農業水利事業所と本国営地区の概要について紹介いただければと思います。

**佐藤所長** 私は昭和62年に関東農政局へ採用されました。これまでの異動は関東農政局管内が主で本局、調査管理事務所に長く勤務してきました。他省庁にも出向しましたが、今回の東北局も含めて他の農政局勤務は初めてです。

最上川下流左岸農業水利事業所は山形県北西部庄内平野のほぼ中心、東田川郡庄内町にあり、南に月

山、北に鳥海山を望むことができます。

本地区を含む最上川下流地域は、これまで山形県営・国営事業の実施により農業用排水施設が整備され、「米どころ庄内」として発展してきました。

しかしながら、既存の排水施設は老朽化しており、また近年の降雨量の増加や土地利用の変化に伴い、排水施設の能力を上回る排水が流入し湛水被害が発生しています。このため、現在、湛水被害軽減を図る施設整備を進めています。

——次に、株式会社奥村組の松岡所長、お願いたします。お忙しい中、インタビューに協力していただきありがとうございます。松岡所長にも、これまでの現場経験や職歴、そして、農業農村整備事業の工事を経験されていたら、ご紹介ください。

**松岡所長** 私は平成17年に入社して以来、主にトン

ネル工事、河川工事に携わってきました。農業農村整備事業の工事は、今回の西野排水機場建設工事で4件目となります。平成26年に今回と同じ東北農政局管内での後谷地排水機場建設工事を、令和3年に関東農政局の北調低地排水路整備工事で排水機場の撤去工事をそれぞれ経験していますので、排水機場関係の工事経験が多いと思います。また、令和2年には東海農政局の明治用水頭首工耐震化対策建設工事も担当しました。どの現場も河川区域内あるいは河川に隣接した場所での「水」を相手にする工事だったので、工程が天候に左右されるうえ出水対策を講じることが必須であり、大雨等による影響に備えて気を抜くことも出来ませんでした。施工時の諸問題を発注者とともにつづつ解決しながら工事を進め、無事に竣工を迎えた際には大きな達成感を得ることができました。

——令和5年10月に西野排水機場建設工事に着手し、まもなく完成です。本工事の概要を教えてください。

また、その間、大雨にも遭遇され大変ご苦労されたと拝察しています。完成に向け、工事の進捗状況について教えてください。

**松岡所長** 本工事は、国営最上川下流左岸土地改良事業計画に基づいて西野排水機場の改修を行うものです。排水機場の能力を4.45m<sup>3</sup>/sから8.8m<sup>3</sup>/sへ倍増することにより、湛水被害と維持管理労力の軽減を図ります。

排水機場の基礎工事を実施していた令和6年7月25日には、庄内地域で発生した大雨の影響により、現場内がほぼ冠水しました。最上川が氾濫するのではないかと思うような大雨で、現在の西野排水機場のポンプでは排水しきれなかったことから、排水能力強化の必要性を改めて感じました。この想定外の大雨や、冬期の強風など天候の影響も受けましたが、工事関係者のご尽力により工程に大きな遅れなどもなく最終段階を迎えており、現在は西野排水路から流



西野排水機場付近の浸水状況

入する遊水池流入口の護岸工、既設吐出水槽と接続暗渠の設置を行っています。

## 平成30年に世界かんがい施設遺産に登録される

——早速、国営事業の話から始めたいと思います。佐藤所長よろしくお願いたします。東北を代表する米どころ「庄内平野」を潤す最上川は山形県の流域面積の約3/4を占める大河であり、松尾芭蕉の有名な俳句がすぐ頭に思い浮かびます。

今回、探訪させていただく最上川流域の自然、歴史、地域農業、人々の暮らしぶりなどについて、改めて紹介して下さい。

**佐藤所長** 江戸時代の俳人、松尾芭蕉が「五月雨を集めて早し最上川」と詠んだ最上川に落ちる「白糸



西野排水機場工事概要図

の滝」は、芭蕉が訪れた1689年の夏と変わらぬ風景を今もとどめています。今、最上川を下り「白糸の滝」を過ぎると、300年前にはなかった構造物が目に入ります。「草薙頭首工」と「最上川取水口」です。この2つの施設で取り入れられた水は、最上川の左右岸に広がる庄内平野に動脈のように張り巡らされた水路を通じて、約13,000haの水田の隅々にまで配られています。

この巨大な水路網が、庄内平野の稲作を支え、この地域をわが国でも有数の穀倉地帯としています。しかし、この水路が長い歴史と人々の努力の積み重ねにより完成されたことを知る人は少ないかもしれません。

——本地区は江戸時代の初期から先人達が大規模な新田開発と農業用水確保のため、気の遠くなるような労力を積み重ねて、今に至っていると聴いています。ここで江戸時代に遡っていただき、農業と治水の両面から本流域の開発の歴史を教えてください。

**佐藤所長** 1601年、関ヶ原での軍功により、庄内一円と由利を加増された山形城主最上義光は、狩川城に北館大学助利長を配し、狩川・清川・立谷沢を治めさせました。領地のすみずみまでを視察した利長公は、領民が沼や沢水を頼りに耕作し水不足で苦しんでいる姿を見て、何とかこの地に水を流せないものかと思案しました。

それから10年にわたる歳月をかけて現地をこと細かく調べ、河床が高く月山の雪解け水が流れる立谷沢川に堰を設けて取水し、最上川の岸壁に沿って開水路を通すことを計画します。山形藩はこの計画を認め1612年に工事を開始し、一日当たり7,400人



北館大学助利長の銅像

もの人員を投入して工事を進めます。山裾の掘削では土砂崩れにより16名の作業員が圧死したほか、最上川の岸壁に築いた水路は激流により何度も流される等、工事は困難を極めました。約10kmの水路を4ヵ月で完成させました。この北楯大堰及びさらに3年かけて整備した水路（総延長32km）により、約5千

haのも水田が潤い、米どころ庄内平野の礎となりました。利長公の功績は極めて大きく、没後も流域の人々の報恩の気持ちは衰えることなく、1778年に水神様として祀る社殿が立てられました。現在では、北館神社として春秋の祭



世界かんがい施設遺産北楯大堰

祀が行われるなど広く流域の人々に慕われています。

北楯大堰（立谷沢川から取水する頭首工と農業用水路の総称）は、県営用水改良事業や国営最上川下流農業水利事業による改修を経て、現在も庄内平野の農業を支えています。歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設として、平成30年に世界かんがい施設遺産に登録されています。

——貴重な話、ありがとうございます。本地区が世界かんがい施設遺産の認定に至った理由と土地改良区等の地元関係者の思いをお聴きしたいです。更に、未来に向けた地域づくりに興味津々です。

**佐藤所長** 北楯大堰の世界かんがい施設遺産認定は、その開削の歴史や地域に果たしている役割の重要性、農家や土地改良区による適切な維持管理が評価されたものです。今も、豊富な用水量を有する北楯大堰は、潤いの空間を地域に提供し美田と調和した憩いの場として親しまれており、町の小学校で歴史などを学ぶための副読本に掲載されるなど、歴史的資産として高く認識されています。

また、400年前の北楯大堰開削以来、日本有数の穀倉地帯である庄内平野の基盤を数えきれないくらいの人々の努力によって造り上げてきたその志は、最上川土地改良区を始め、この地域の人々に今もなお受け継がれています。

現在担い手への農地集積の加速化と地域農業の競争力強化を図るため、土地改良区管内においては、大区画化、用排水路のパイプライン化とは場内耕作道の設置等によるスマート農業の実現など持続可能な農業を目指し、「県営農地整備事業」に取り組んでいます。

## 湛水被害の軽減と維持管理費の労力を軽減

—では、次に、現在実施中の国営事業に話題を進めさせていただきます。冒頭、ご説明いただいたように、最上川下流地域と言えば、左岸と右岸に広がっていて、構成される市町も鶴岡市、庄内町、酒田市となっています。本地域全体における事業の歴史や経緯を教えてください。

**佐藤所長** 当時、左岸側の土地改良区としては、先ず管内一円の用水の絶対量を増加させることを優先し、昭和29年県営用水改良事業に取り組みました。最上川の支流立谷沢川を水源とする北楯大堰土地改良区と最上川を水源とする吉田堰土地改良区とが合併し昭和30年3月、最上川土地改良区となったのもこの事業がきっかけとなっています。

事業により用水が潤沢に供給されるようになると自然排水の不良が際立ち排水路の改修が課題となりました。昭和36年から山形県による排水改良計画に着手、内水排除用排水機場の新設と33kmに及ぶ排水路を改修する県営「最上川排水事業」が昭和40年に着工され13カ年の歳月をかけ整備が行われました。

その後、先行して整備した用水施設は老朽化が進むとともに、最上川は河床低下により渇水期には慢性的に取水が困難となっていました。最上川右岸の大町溝土地改良区・日向川土地改良区の取水施設と最上川土地改良区取水施設は、1km足らずの距離にあることから、安定

的な取水を可能とする頭首工の設置に向けた機運が高まりました。同時期に、建設省(現国土交通省)は河川改修工事の一環として「最上川中流堰(後のさみだれ大堰)」を建設する構想が立てられ平成元年に着工。安定取水が可能となることを踏まえ、国営最上川下流農業水利事業(平成5年～)、国営最上川下流沿岸事業(平成13年～)により、老朽化した用水施設に対する整備が行わ

れました。

—ありがとうございました。これまでの事業の流れを理解することが出来ました。では、現在実施中の最上川下流左岸地区の事業計画について教えてください。本地域の課題をどのように解決していく事業なのか具体的に教えてください。

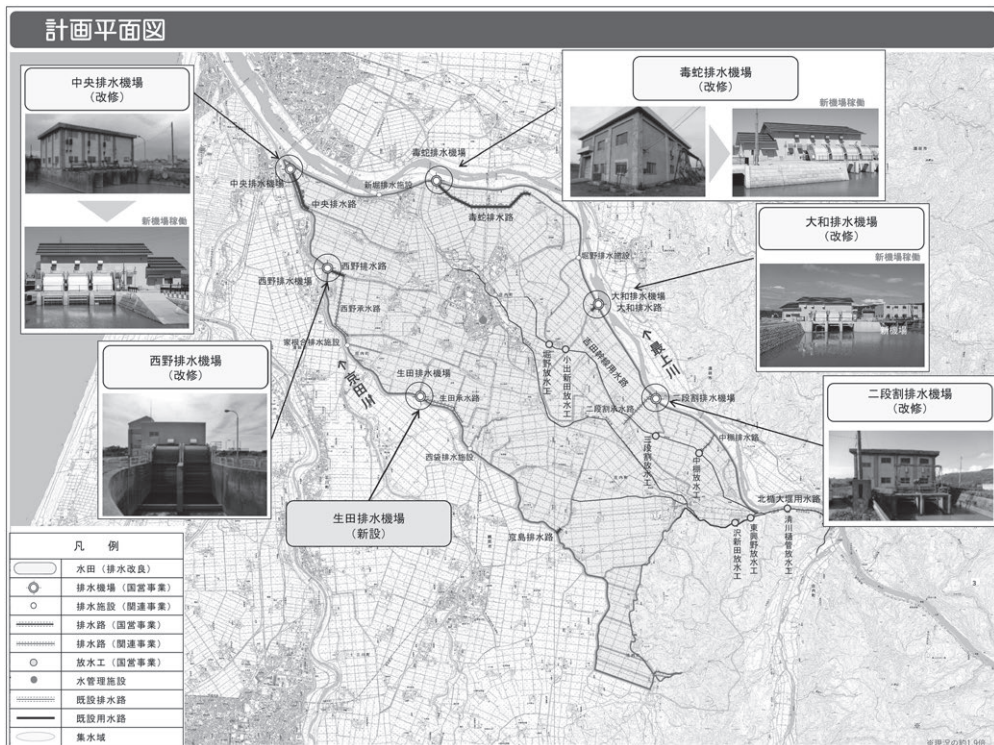
**佐藤所長** 近年は、降水量の増加や土地利用の変化に伴い、排水施設的能力以上の水量が地区内に流入し、湛水被害が生じるようになりました。平成20年8月には大雨により1,200haを超える農地が湛水し農業施設で7千万円超、農作物は庄内町だけでも1億3千万円もの被害が発生しました。それ以降も本地区はたびたび大雨による湛水被害が発生しています。また、排水施設は経年劣化も進行し排水機場においては、ポンプ設備からの油漏れ、排水路においては積ブロックが欠損するなど排水機能に支障を来すとともに維持管理に多大な労力を要するようになりました。

このため、本事業は、老朽化した旧排水機場5か所(排水量計28.59m<sup>3</sup>/s)の改修及び排水能力向上を図るため、1か所新設して計6か所の排水機場を造成するとともに5.6kmの排水路改修、放水路及び水管理施設を整備します。排水機場6か所の合計排水量は54.40m<sup>3</sup>/sとなり、旧機場の合計排水量に比べて1.9倍に強化します。

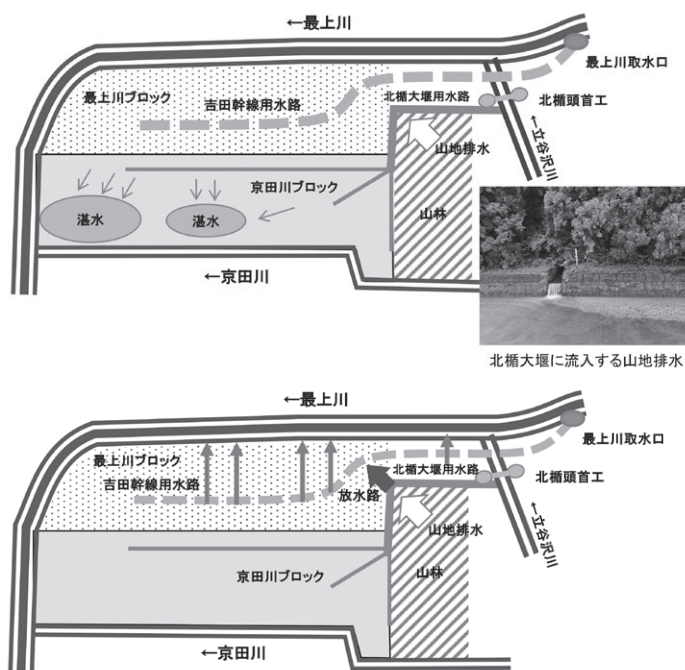
また、本地区は、最上川と京田川にはさまれてお



土地改良事業の経緯



事業計画平面図



用水路を利用した排水の再編イメージ

現況

山地から北橋大堰用水路に流れ込む排水が京田川ブロックの下流域に溢れ、湛水被害を大きくしている

再編後

北橋大堰用水路から最上川へ直接排水する放水路及び吉田幹線用水路を通じて最上川に排水する放水路を新たに整備することで、湛水被害を軽減することが出来る

主要工事である西野排水機場建設の役割や重要性、また、地区の施工スケジュールの中、このタイミングで施工に至った理由を教えてください。

佐藤所長 排水システムの再編を念頭にしつつ、湛水が発生しやすい下流部にある排水機場から建設を進めており、これまでに中央、毒蛇、大和排水機場が概成し稼働できる状態となっています。庄内町市街地からの排水を受ける西野排水機場は特に重要な施設であり、地域は大きな期待を寄せています。しかしながら、降雨による流出が早いこと、特に冬場の庄内地域の厳しい気象条件などから現場は非常にご苦労されているものと存じます。詳細は松岡所長にお願いします。

——お待たせしました。松岡所長にお伺いします。まず始めに、西野排水機場建設工場の現場に立った時の第一印象とその時に感じた抱負をお聞かせください。松岡所長 本工事は、私にとって日本海側で

り、東南から北西にかけて横断する国道47号線（仙台～酒田線）により南北に二分され、南部地域は京田川へ、北部地域は最上川へ排水されています。湛水しやすい京田川ブロックに流入する排水の一部を最上川ブロックへ振り替えるため、既設用水路を活用して放水路を整備し、最上川に排水する排水システムの再編を行うことが特徴的です。

——では、今回、取材をお願いしている西野排水機場工事に話題を移していこうと思います。本地区の

の初めての現場となります。現場を初めて見た時に「周囲に風を遮るような構造物等がないので、特に冬期には風を強く感じるだろう」と思いました。また、山形県は豪雪地帯であるため、雪にも苦労するかと考えていました。令和5年10月に着工して以来、二度の冬を経験していますが、幸いにも雪の影響はそれほど受けませんでした。ただし、日本海側特有の強風には手を焼いており、対策が難しいため日々の天候状況を見ながら施工するか否かを判断しています。

## パワーブレンダー工法の採用とリアルタイムの現場共有

——本工事特有の技術面あるいは環境面において、特に留意しなくてはならない課題、困難性はありましたでしょうか。

**松岡所長** 工事用道路は、地元住民の方々や営農者も使用する道路を利用しているため、第三者の安全に十分配慮しながら工事を進めています。

排水機場構築に伴う掘削土留めにおいて、一般的な工法である「土留め切梁工法」ではなく、「パワーブレンダー工法での地盤改良による土留め壁の形成」を採用しました。これにより、切梁が不要となり躯体の施工がしやすくなります。この地盤改良においては、改良強度が発現しすぎるとその後の掘削が困難になるため、配合添加量の検討や、ICT施工、配管用RI密度計によるスラリー密度管理、攪拌回数の増加、固化材含有量を測定し、事前に改良強度を確認する固化材含有量計測システムを運用することで、適切な強度を持った改良体造成に取り組みました。——今の話と重複するかも知れませんが、少し視点を変えてお伺いします。

建設業界においても、現在、技術者の高齢化や働き方改革等に的確に対応してくため、新技術の活用に積極的に取り組んでいます。西野排水機場の工事現場においてはいかがでしょうか。

**松岡所長** 当社でも働き方改革に向けた取り組みを実施しています。工事所においては、職員数に限りがあるなかで如何に効率よく業務を進めるかが重要となってきています。支社店、BPO等のバックオフィスによる業務支援を活用することにより、出来形品質調書の作成や写真整理などの工事所職員の負担を減らし、労働時間の削減に繋げています。また、職員同士の連絡ツールについてもTeams等のビジネスチャットと360度ネットカメラを使用することで、現場状況をリアルタイムで共有し、問題の早期発見・解決に努めています。

——工事完了に向けて順調に工事は進んできているとお伺いしています。残工事の内容と、もしもありましたら課題とその対応方策等を教えて下さい。

**松岡所長** 10月の非出水期に入りましたが、今後は遊水池の護岸工、既設吐出水槽と接続暗渠の設置など、排水路に面した施工となるため、これまで以上に排水路の水位や天候に気を配る必要があります。まずは河川水位情報をよく確認し、排水路の水位が上昇するようであれば早めの対策を講じて、影響を



パワーブレンダー状況



パワーブレンダー後掘削状況

最小限に留めるように努めます。また、ポンプ設備工事、除塵設備工事が開始されますので、現場内で当社を含めた3社の工事が輻輳する状況になります。各工事間の工程調整、作業ヤード調整などが一層難しくなるかと思いますが、発注者も交えた四者で協力し、工期内の完了と早期運転を目指します。

## 奥村組の最新CMの反応と評価

——ありがとうございます。では、最後に、建設会社各社が力を入れている人材の確保や社員のエンゲージメント向上についてお伺いします。

奥村組さんにおかれましても、最新のCMは新米女性所長を主人公にした意欲的なもので、インパクトの強い仕上がりになっています。可能な範囲で裏話や貴社内での評判等を紹介いただければとお願いいたします。

**松岡所長** CMが放映されるようになってから、「奥村組さんのCM見えていますよ」などと言われることも多くなり、同業他社からもお褒めの言葉をいただくことがありました。本当に建設現場にいそうな俳優さんのキャラクターと、クスッと笑えるストー

リーに加え、最近では「新3K+K」や「育休」など、建設業界全体のイメージアップにつながるようなテーマを取り上げていることも評価をいただいているのかなと個人的には思っています。

CMを通じて、「奥村組」という名前を広く知っていただき、注目していただけたのは嬉しいことですし、社員の仕事に対するモチベーション・アップにもつながっていると思います。現場サイドとしては、実際の仕事を通じて奥村組を知っていただくことや、関係者の皆様から「奥村組に

仕事をしてもらって良かった」と評価していただくことが重要だと思っていますので、当社の経営理念である「誠実施工」に引き続き努めていきます。

——この経営理念、企業PR、働き甲斐、若手技術者の育成等に関連して、松岡所長さんのモットーを教えてください。

**松岡所長** 当社は「堅実経営と誠実施工を信条に、社会から必要とされ続ける企業として、社業の発展を通じ広く社会に貢献する」ことを経営理念に掲げています。工事を進めるにあたっては、誠実に現場と向き合うことが何より重要であると思います。設計図面通りにいかない場合や、日々変化する現場状況に対応し、発注者、協力会社の方々と力を合わせて一つずつ丁寧に問題を解決しながら進める必要があります。現場では、思い通りに進むことはあまりなく、どう対応すればよいか迷う場面も多いかもしれません。しかし、よく観察していると、現場に必ず回答があります。当工事所には昨年新入社員が配属されました。現場代理人はこれからを担う33歳の若手技術者です。思い通りに進まない困難な問題も皆で力を合わせ解決しながら、着実に工事を進めていくことが現場の醍醐味だと私は思っていますので、若手技術者にもそのことを伝えるよう心掛けています。私自身も若手技術者と一緒に成長していきたいと考えています。

——今、松岡所長に紹介いただいたように、企業はこれまで以上にプロモーションに力を入れて来ている。



ヤツメさん

### 何をしているところ？

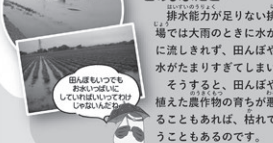
#### 困っていること

田んぼの水を抜くための排水路。大雨で自然に流れなくなった水をポンプで川に押し出すための排水機場。  
これらの施設が建てられたときよりも大雨の日や雨の量が増えてきたため、今の水を流す力（＝排水能力）では不十分になりつつあります。

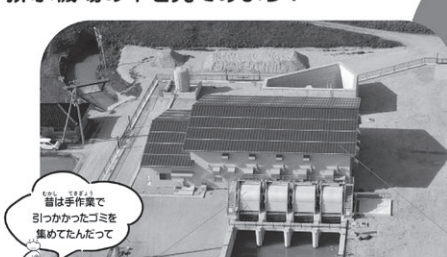


#### このままだと…

排水能力が足りない排水機場では大雨のときに水が十分に流れず、田んぼや畑に水がたまりすぎてしまいます。そうすると、田んぼや畑に植えた農作物の育ちが悪くなることもあれば、枯れてしまうこともあるのです。



### 排水機場の中を見てみよう！



排水機場にはポンプや除塵設備などのさまざまな機械があります。また、排水機場には休憩室もあるので、長時間の作業になっても休みながら続けられるようになっています。

水が引けるまでひと晩中いることもあるらしいよ。

昔は手作業で引っかけたゴミを集めてたんだって。

**除塵設備**  
水路を流れてきたゴミをポンプが吸い込まないようにガードする施設。  
ツメみたいなもので、引っかけたゴミをかき上げて、ゴミを回収しやすくなっています。



**ポンプ**  
圧力を使って、水を強制的に吸い込んだり、吐き出したるる機械。  
排水機場にあるポンプは、大人の肩丈よりタケモッコも大きいです。



モガくん



サガちゃん

子供向けリーフレット（排水編）

一方、行政サイドも、円滑な農業農村整備事業の推進や人材確保を意識して、以前に増して、広報活動の重要性を認識してきていると思います。

今回の取材で、本事業のマスコットキャラクターの存在を知り、興味を持ちました。このキャラクターに限らず、関係者への情報発信や対話をどのように捉えて取り組んでいらっしゃるのか教えてください。

**佐藤所長** 用水事業と異なり、排水事業の役割を一般の方にお伝えするのは、なかなか難しいです。当地区にある排水施設の管理は土地改良区が行っております。農地のみならず市街地からの排水を受けており、そのことを広く住民にご理解いただきたいとの思いで、広報活動は重要と考えております。事業所としては、より親しみやすい印象をと、若手職員が共同でマスコットキャラクターを考案し小学生向けのリーフレットを作成しました。今後は出前授業や現場見学などを通じて積極的にPRしていきたいと考えています。

### 働き方改革とその成果

——ありがとうございます。では、話題を変えまして、近年、大きな関心事になっている「働き方改革」について伺います。事業所では、どのような取り組みをされているのでしょうか。

**佐藤所長** 本地区は、対象施設に隣接して農地が広がっていますので、工事は稲刈り後となります。早期発注により、余裕工期を確保するとともに、初回の円滑化会議時にクリティカルパスを考慮した工程

計画をお示しして工程上支障のあるような事案があった場合は、受発注者間が一体となってこれを解決するべく協議を進めるよう心掛けてます。

特に受発注者間のコミュニケーションは重要です。今回の西野排水機場の建設にあたっては、土木・建築工事、ポンプ設備、除塵機と3社が連携して工事にあたっていただいています。地元からの期待を踏まえ、事業所としては、令和8年夏までには稼働させたく考えております。非常に厳しい工程であり、ちょっとした行き違いは大きく工程に影響します。作業の手戻りなどを防ぐため、事業所を含めた四者で毎週WEBによる工程会議を実施してきました。——松岡所長からも、受注者の立場で取り組んでいることや発注者と受注者が共に取り組んで来たことを紹介ください。

**松岡所長** 当工事所における働き方改革の取り組みとして、四週八閉所を実施しており現時点では閉所率もクリアできています。発注者のご尽力もあり、四週八閉所を実施したうえでも工期が守れています。工事完了まで半年を切っていますが、最後まで安全に、かつ工期を順守できるよう、現場管理を徹底したいと考えています。

### 重要なのは地域全体で取り組む適応策

——長時間に渡り、お二人には貴重なお考えや興味深い情報もお聴かせいただき、有難うございます。

西野排水機場建設工事も完成に向け最終段階にきています。そして、国営事業も令和11年度完了を見据えて、重要な段階に移っていくと拝察します。このインタビューのまとめとして、お二人から、受益市町及び地元関係者の皆様に向けたメッセージをい

ただけますでしょうか。

**佐藤所長** 令和6年7月豪雨は、本事業の計画基準降雨を大きく上回るものでした。今後も極端な降雨は頻発化、激甚化すると言われており、本事業による排水施設の機能強化のみならず、AIなど最新技術を取り入れたきめ細やかな水管理や田んぼダムなど、ハードとソフトを組み合わせ地域全体で取り組む適応策が重要と考えています。最上川土地改良区管内はすべての範囲で多面的機能支払活動に取り組まれています。今後は、これら組織を主体に田んぼダムに取り組むなど、地域全体で排水対策に取り組まれることを期待しております。

**松岡所長** 地元で営農されている方とお話をさせていただいた時に、朝早くから夜遅くまで働いていることを聞き、農業がハードな仕事であることを改めて感じました。新設される西野排水機場によって湛水被害が減少することで、地域の農業の更なる発展に貢献できたらと考えています。

### 終わりに

国営最上川下流左岸農業水利事業は、「世界かんがい施設遺産」に認定された国営事業地区を更新・保全していくという重要な使命があることを、今回、取材させていただきました。事業が計画通りに完成し、その使命を果たされることを心から願っています。

また、発注者・受注者の双方の「働き方改革」が進み、働き甲斐のある職場になること、特に若い世代にとって活気ある職場になることを強く願っています。

本日は、長時間のインタビューお疲れ様でした。

※本インタビューは2025年10月に実施したものです。

#### PROFILE



さとう ひでこ  
**佐藤 秀彦** 所長

農林水産省 東北農政局  
最上川下流左岸  
農業水利事業所

昭和43年栃木県生まれ。昭和62年栃木県立宇都宮農業高等学校農業土木科卒業後、同年農林水産省に入省。関東農政局管内事業所、本局の他、農村振興局、北海道開発局、関東地方整備局、水資源機構に勤務。朝のウォーキングとストレッチが日課。

#### PROFILE



まつおか だすけ  
**松岡 大輔** 所長

株式会社奥村組  
農政庄内工事所

昭和54年山口県生まれ。平成17年(株)奥村組入社。トンネル工事、排水樋門、排水機場工事に従事。令和5年より西野排水機場建設工事従事。

趣味は料理。休日は料理動画を鑑賞し、実際に料理をつくることでリフレッシュしています。